2019 年度事業「外国ルーツ青少年未来創造事業」

実行団体　事後評価報告書

１．基本情報

（１） 実行団体名：特定非営利活動法人 glolab
（２） 実行団体事業名：外国ルーツ青少年(高校生)向け進路・キャリアの支援・相談およびロールモデルコミュニティ創出事業
（３） 資金分配団体名：公益財団法人日本国際交流センター
（４） 資金分配団体事業名：外国ルーツ青少年未来創造事業―外国にルーツをもつ子供・若者の社会的包摂のための社会基盤作り
（５） 事業の種類：イノベーション企画支援事業
（６） 実施期間　2020 年４月～2023 年３月
（７） 事業対象地域　全国

２．事業概要（1,000 字程度）

当事業によって解決を目指す社会課題は、外国にルーツを持つ若者、特に高校生の進路選択に関する課題である。令和 ４ 年度に文部科学省が実施した「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」では中退率、進学率、非正規就職率、進学も就職もしない率等、高校生全体のデータと比較して大変厳しい状況にある。 この要因としては、1)日本語力不足で授業を理解できず自己効力感を失う、2)進学・就職の情報を適切に入手できない、3)在留資格の問題を相談できる専門家がいない等の問題に直面しその中には母語での言語能力・学力は十分に備えている生徒もいるが、高校現場では課題の把握や対応が十分にできていないなどの課題があることが当団体の事前評価で明るみになっている。そこで、当団体は、外国ルーツの高校生および教職員、支援者を対象として事業を設計した。
中長期アウトカムは、「東京都ならびに他地域の支援空白地域において、自己成長ができる支援ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑを提供することで、全ての外国ルーツ青少年の能力強化及び社会的、経済的包含がなされた地域・社会になる」ことである。また、短期アウトカムは外国ルーツの若者が、①早期に自身の将来像を持ち、

それを実現する上で自身に起きうる問題を想定できるようになること、②支援リソースを活用しながら自助努力で問題に取り組み、ありたい将来像の実現をするようになること、③ﾛｰﾙﾓﾃﾞﾙの経験・ﾏｲﾝﾄﾞｾｯﾄ・行動規範を共有したことで、より積極的に自身の将来設計（進学・就職）に取り組むようになること、教職員・支援者が①外国ルーツ生徒の問題を理解し、生徒への問いかけや働きかけをして、問題を発見するようになること、②外国ルーツ生徒による悩みや問題の解決を、伴走者として後押しするようになることを目指す。その実現のため①進路情報や進路を考えるための準備の方法を学ぶ動画やロールモデルのライフストーリーといった情報提供、②自身の課題を可視化する診断ツール、③困ったら相談できる場の提供、④多様な大人や仲間と出会い、将来について探求するキャリアプログラムという４つの内容からなる支援プラットフォームを構築し提供する。事業終了後の出口戦略は、活動をより安定的に継続するために財源の多様化を目指す。具体的には①企業との連携（高校での進路の授業、メンター、インターンシップ）②企業寄附③民間助成金④公立高校との連携事業に関しては教育委員会との事業化をはかっていく。

３．事後評価実施概要

１）実施体制　提出前に記載

内部	評価担当分野	氏名	団体・役職
	全体統括	柴山智帆	代表理事
	進路支援プログラム（高等学校連携）	城島サナ	コーディネータ
	自主キャリアプログラム	ウィリアムズ綾	コーディネータ
	自主キャリアプログラム	大山美佳	コーディネータ
外部	調査結果、考察の助言	渡戸一郎	明星大学人文学部名誉教授

２）調査実施概要

JANPIA 例

【定量的な評価の場合】

◎以下の　短期アウトカム

アウトカム 1glolab のプログラムの外国ルーツ生徒が、早期に自身の将来像を持ち、それを実現する上で自身に起きうる問題を想定できるようになる。

アウトカム 2glolab のプログラムに参加した外国ルーツ生徒が、支援リソースを活用しながら自助努力で問題に取り組み、ありたい将来像の実現をするようになる。

アウトカム 3 相談対応および事例報告会に参加した教員及び学校関係者が、外国ルーツ生徒の問題を理解し、生徒への問いかけや働きかけをして、問題を発見するようになる。

アウトカム 4 相談対応した教員が、外国ルーツ生徒による悩みや問題の解決を、伴走者として後押しするようになる。

アウトカム　5　glolab　のプログラムに参加した外国ルーツ生徒が、ﾛｰﾙﾓﾃﾞﾙの経験・ﾏｲﾝﾄﾞｾｯﾄ・行動規範を共有したことで、より積極的に自身の将来設計（進学・就職）に取り組むようになる。

１）調査方法

・外国ルーツ生徒向けアンケート調査（主な項目は進路の基本知識に関するクイズまたは授業の理解度クイズ）

・外国ルーツ生徒向けワークショップの成果物（将来像および課題の具体化　課題解決に対する自信、将来像に取り組み度合い）

・外国ルーツ生徒のプログラム参加後の満足度アンケート

・教職員および支援者のフォーラム参加後アンケート

・教職員および支援者の相談の解決度合い

・教職員および支援者向けアンケート調査（教職員の問題への理解度　教員の問題に対する位置付け（優先順位）教員が把握する生徒情報の量、教員が生徒と接する時間、そのうち、生徒へのｺｰﾁﾝｸﾞやﾒﾝﾀﾘﾝｸﾞに費やした時間、教員による問題の解決度）

２）調査実施時期

・2021 年 04 月～2022 年 12 月

３）調査対象者

・アウトカム１　指標①　81 名　指標②　81 名　指標③67 名

・アウトカム２　28 名

・アウトカム３　フォーラム参加者　370 名　および　事後アンケート回答者　6 名

・アウトカム４　19 名

・アウトカム 5　28 名

４）分析方法

・データ集計

・サンプル数が少なかったため、クロス集計は行わなかった。

【定性的な評価の場合】

◎以下の短期アウトカムの評価

１）調査方法

アウトカム 2glolab のプログラムに参加した外国ルーツ生徒が、支援リソースを活用しながら自助努力で問題に取り組み、ありたい将来像の実現をするようになる。

アウトカム 3 相談対応および事例報告会に参加した教員及び学校関係者が、外国ルーツ生徒の問題を理解し、生徒への問いかけや働きかけをして、問題を発見するようになる。

アウトカム 4 相談対応した教員が、外国ルーツ生徒による悩みや問題の解決を、伴走者として後押しするようになる。

アウトカム 5　glolab のプログラムに参加した外国ルーツ生徒が、ﾛｰﾙﾓﾃﾞﾙの経験・ﾏｲﾝﾄﾞｾｯﾄ・行動規範を共有したことで、より積極的に自身の将来設計（進学・就職）に取り組むようになる。

・訪問面接調査およびワークショップ内エピソード

２）調査実施時期

・2021 年 04 月～2022 年 12 月

３）調査対象者

外国ルーツ生徒で事業の対象となった 53 名のうち，最も特徴的な変化を示した 3 人と変化が少なかった 3 人を対象にした。その選定方法として、ワークショップ中、後の行動変容が現れた生徒を抽出した。

教職員は伴走支援に入っている学校の対象者教職員 3 名のうち 1 名と単発プログラムを実施した学校の教職員 1 名を対象とした。対象者は進路指導の責任者である進路指導部長および外国ルーツ生徒担当教職員

４）分析方法

・調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。

３）事後評価の実施・分析におけるポイント（1,000 字程度）

直接対象者（または間接対象者を含む）に対して「どのような変化」を重要と考えて事業を設計したか、 外国ルーツの高校生は、主体的に進路を選択できる力を得られることを重要な変化として事業を設計した。そのため、情報提供のための動画や記事、自己の課題を発見するツールなどプロダクトの制作に加え、2 年名以降は、キャリアコンサルティングの技法を基本にしたキャリアプログラムの開発と実施を中心にリソースを投入した。 「主体的に進路を選択できる力」とは、進路選択にむかって計画し、情報収集し、実際に進路をきめ進路選択にむけて実行する力と当団体は考える。その力を養った否かを測るために、生徒の変容を①将来像を持ち、起こりうる問題を想定できるようになること、②支援リソースを活用し、またロールモデルとの出会いを通してありたい将来像にむかって行動をはじめることを短期アウトカムとして設定し、事後評価で調査分析する。 また、教職員・支援者の重要な変化は外国ルーツの高校生の背景を理解し課題を発見し、伴走者になることを重要な変化として考え、同内容を短期アウトカムとして設定した。そのためキャリアプログラムを実施している学校の教職員や相談対応をした教職員支援者には伴走支援や、アフターケアを丁寧に行い、認識・理解度の変化、行動変容の様子を記録し、短期アウトカムの発言状況の分析に用いた。事後評価ではこの短期アウトカムを調査分析する。 また事業の波及効果として、他団体、高等学校との連携数と連携内容、組織としての変化を分析し、評価する。

４．事業の実績

１）インプット

資金	助成金（円）32,159,800 円		自己資金（円） 2,736,615 円	
	契約当初の計画金額：	実際に投入した金額：	契約当初の計画金額： 4,019,199 円	実際に投入した金額・種類： 2,736,615 円
	資金調達に工夫した点：クラウドファンディングを実施し、課題の理解者を広げるため個人寄付者の拡大につとめた。			

人材	"内部：役員①：事業の計画と評価、ｵﾝﾗｲﾝﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ統括、自動診断ツール開発　役員②：事業ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ、教員・支援者向け相談 担当①：動画ｺﾝﾃﾝﾂ、進路相談　担当②：ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ、ﾛｰﾙﾓﾃﾞﾙ研修 外部：①WEB ｻｲﾄﾃﾞｨﾚｸﾀｰ、②ｻｰﾊﾞｰ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ開発、③ｱｰﾄﾃﾞｨﾚｸﾀｰ、④ﾛｰﾙﾓﾃﾞﾙ取材およびﾗｲﾀｰ"
資機材 （主なもの）	パソコン１台（動画編集用）、カメラ、三脚
その他	

２）活動とアウトプットの実績

（１）主な活動（1,000 字程度）

事前評価として、15 歳から 30 歳未満の若者に高校生活、および既卒者には高校時代を振り返って進路選択の課題に関する調査を行った。その結果、20%の回答者が将来像の探索に課題を抱え、40%は、進学や就職の意思があったが進路情報へのアクセスに課題を抱えており、もっと情報が欲しかったと回答した。そして、30%が「大学生や専門学校生との交流」、「ロールモデルの経験談」、「インターンの体験」が必要だと回答した。同時に教職員にも定性調査を実施したが、「どんな課題があるか把握できていない。」「さまざまなニーズのある生徒を抱えているため、外国にルーツを持つ生徒に特化した支援ができない。」「教職員によって外国にルーツを持つ生徒に関する知識に差がある。」等の回答があり、生徒のニーズに高校が対応できていないことが明るみとなった。

この結果から、外国にルーツを持つ高校生の厳しい進路状況の要因は、①外国にルーツを持つ生徒の特有な課題に関する情報取得や支援体制の課題（在留資格による奨学金の制限や就職に関する制限など進路に関する複雑な情報）、②保護者の日本社会に対する理解不足、③日本社会から孤立／社会適応の課題であるということがわかった。

そこで、この要因の打ち手として①情報提供として、進路情報や進路を考えるための準備の方法を学ぶ動画を YOUTUBE で配信した。また、外国ルーツの社会人の行動規範や生き方を学ぶためにライフストーリーを記事化しリライト教材を作成した。

また、②外国ルーツの高校生が自身の課題をより理解するために課題を可視化する LINE 診断ツールを７言語で開発提供した。

さらに、③課題を発見したときに相談できる場として LINE 相談窓口を開設した。

④多様な大人や仲間と出会い、将来について探求するキャリアプログラムを開発した。このキャリアプログラムは自主プログラムとして、北海道浦幌町の社会人と連携した地域を軸として将来を考える「みらいチャレンジプログラム」、経済的な困難を抱え在留資格によって奨学金受給の壁もつ進学希望の高校生向けの

「NEWDOOR 進学プレッププログラム」、高校と連携した「進路支援プログラム」という３つのプログラムを提供した。これら３つのプログラムは単独のプログラムではなく、支援プラットフォームとして提供している。また、教職員や支援者が、外国ルーツの生徒の支援力を養い、必要な情報を得るために支援者研修や勉強会を定期的に開催した。まだ、教職員や支援者からの個別の相談に対応するために相談窓口を開設したりした。

３）アウトプット実績

②　実績値

アウトプット	指標	初期値	目標値	目標達成時期	実績値
外国ルーツ青少年が抱える課題がまとめられ、オンライン用の相談ツールが開発・公開される	①診断ツールを使用した生徒数 ②診断ツールを使用した教員数	①0 名 ②0 名	①250 名 ②100 名	2023/3/31	①45 名 ②2 名
オンラインによる外国ルーツ青少年にかかわる進路・キャリア関連情報が提供される	①動画ｺﾝﾃﾝﾂ作成数 ②ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ記事作成数 ③　進路関連記 ④　glolab のプログラム利用者数	①0 本 ②3 本 ③0 本 ④5 名	①120 本 ②30 本 ③20 本 ④1000 名	2023/3/31	①141 本 ②28 本 ③20 本 ④672 名
高校教員等向けの相談、事例報告会が実施され、教員等が外国ルーツ青少年対応に必要な知識とスキルを獲得する。	①事例報告会開催数 ②相談対応をした教員・支援者数	①0 回/年 ②0 名/月	①2 回/年 ②5 名/月	2023/3/31	①平均　2.7 回／年 2020 年度　1 回 2021 年度　4 回 2022 年度　3 回 ②0.6 名/月 2020 年　1 名 2021 年　5 名

	③事例報告会に参加する教員・支援者数 ④事例報告会の理解度 事例報告会で提供された課題／内容	③0 名/回 ④　0	③50 名/回 ④事例報告会に参加した 80％以上の教員がその内容を理解		2022 年 12 名 ③ 平均 46.2 名/回 2020 年 45 名 2021 年 51 名/46 名/31 名/26 名 2022 年 34 名/53 名/84 名 ④82.2% アンケート回答者のみで計算・分母はアンケート回答者 2020 年 23 名/28 名 2021 年 30 名/31 名 31 名/32 名 18 名/20 名 10 名/12 名 2022 年 16 名/22 名 28 名/32 名 16 名/23 名
外国ﾙｰﾂ青少年向けに進路相談会等が実施され、進路情報や生徒の悩みや問題を共有する場となる。	①ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ開催数	①１回/年	①６回／年	2023/3/31	①平均 11 回/年 2020 年　1 回 2021 年　9 回 2022 年 23 回

	②ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの参加生徒数	②5 名―10 名/回	②1 5 名～20 名		②平均 6.4 名/回 2020 年 六郷工科４名 2021 年 ・みらいチャレンジ 事前 9 名 夏 7 名 事後 1 回目 6 名、事後 2 回目 6 名 最終 5 名 ・六郷 1 回目 6 名 2 回目 6 名 3 回目 6 名 ・クルド 15 名 2022 年 ・みらいチャレンジ 事前学習 12 名 夏合宿 11 名 事後学習 10 月 11 名 事後学習 11 月 11 名 ・NEWDOOR 進学プレッププログラム １回目 4 名 2 回目―5 回目 3 名 八王子拓真高校 6 名 六郷工科定時制

	③個別ﾒﾝﾀﾘﾝｸﾞ対応生徒数	③0 名	③30 名		1 回目 5 名 2 回目 5 名 3 回目 5 名 4 回目 3 名 5 回目 3 名 6 回目 2 名 7 回目 4 名 信楽高校 1 日目 19 名 2 日目 4 名 クルド難民ガイダンス 4 名 赤羽岩淵中学 １回目 3 名 2 回目 5 名 グローバルコミュニティーまつど 10 名 ③ 10 名 六郷工科定時制 2 名 信楽高校 5 名 NEWDOOR 進学プレッププログラム 3 名
外国ルーツ青少年もしくは高校教員等が glolab の	LINE 診断もしくは WEB 上から相談した人数	①0 名	①50 名	2023/3/31	①19 名

プラットフォームで相談をする。					
社会人や学生が進路・ｷｬﾘｱに関するglolabの活動に参画し、主体的に活動して、生徒の相談役を担う	①社会人および学生の参加者数（のべ人数） ②支援生徒数	①3 名 ②0 名	①60 名 ②30 名	2023/3/31	①73 名 （うち外国ルーツ青少年 23 名） ②80 名

③ アウトプットの実績概要（1,000 字以内）

進路情報提供として、進学・就職情報、進路について考え方を学ぶ動画等多言語で動画を 141 本制作し、Youtube で公開した。これらの動画を使用した進路支援プログラムを開発し、公立高校等（公立高校３校、公立中学校１校）と連携し、学校内で実施した。本プログラムはキャリアコンサルティングの技法を使用し、自己を深掘りする「自己理解コース」、なぜ仕事をするのか、興味のある仕事は何か探求する「仕事理解コース」からなる。

また、自主プログラムでは、地域をキーワードに自身の将来像を探求する「みらいチャレンジプログラム」を北海道十勝郡浦幌町の社会人や企業と連携して実施した。また、進学を希望しているが、経済的な課題をかかえつつも、在留資格の問題で奨学金受給の対象外となる高校生のキャリアプログラム「NEWDOOR 進学プレッププログラム」もあらたにスタートした。平均年間 11 回キャリアプラグラムの授業やワークショップを行った。述べ７３名の社会人・学生がプログラムに参加し、62 名の生徒を支援した。でこれらのプログラムの主なねらいは、自身の将来像を具体化し、その実現のために起こりうる課題を認識すること、ロールモデルの経験・ﾏｲﾝﾄﾞｾｯﾄ・行動規範を共有したことで、より積極的に自身の将来設計（進学・就職）に取り組むようになることであり、短期アウトカムと直結している。

自主プログラムの「みらいチャレンジプログラム」「NEWDOOR 進学プレッププログラム」では参加生徒に対して満足度アンケートを実施した。その結果 95%の生徒がプログラムの内容を「とてもよかった」と評価した。具体的には、50%の生徒が他校の生徒と知り合えたこと、50%が新しい知識や大人と出会いを得たことをその理由にあげた。そして、全員の参加者がプログラム参加後、新しいチャレンジに取り組んだと回答しており、上記短期アウトカムの達成状況の証左となった。

また、教職員及び学校関係者が、外国ルーツ生徒の問題を理解し、外国ルーツの生徒の問題を発見できるように（短期アウトカムとして設定）、支援者向

けの勉強会、事例報告会を３年間で８回実施した。弁護士や大学教員等の専門家にも登壇いただき、参加者の８割以上がプログラム内容をよく理解できたとアンケートで回答した。
一方、達成できなかったアウトカムは、①LINE 診断ツールの使用者数、②社会人のライフストーリー記事、③glolab のプログラム利用者数、④相談対応をした教員・支援者数⑤事例報告会に参加する教員・支援者数　⑥ワークショップ１回あたりの参加生徒数、⑦個別メンタリング生徒数、⑧LINE もしくは WEB からの相談者数だった。
その原因について述べる。①自己の課題を可視化する LINE 診断ツールの利用者数は、生徒が 45 名(目標値 250 名)、教職員が２名（目標値 100 名）当初の予定より限定的だった。当初はツール単体で利用者を増やせると想定していたが、外国ルーツ青少年、保護者等この情報・ツールの必要性に対する自覚がないことがわかり、キャリアプログラムの中に組み込むことで方向転換を行った。また、支援団体や学校にツールのプロモーションを行い、より使用しやすい WEB 版をリリースしたが、LINE 診断単体で利用するユーザーはあまりおらず、上記キャリアプログラムのワークショップで使用する場面が多かった。また LINE 相談に関しても 19 名（目標値 50 名）と人数が少なくほとんどが教職員からの相談だった。LINE 診断ツールおよび LINE 相談の周知は今後の課題である。
②社会人のライフストーリー記事は、インタビーに応じてくれる対象者を探すのに苦慮したことが要因である。ただ、2023 年 2 月、3 月にインタビューを 2 名実施予定で、目標達成時期には目標に到達しなかったが、事業実施期間には達成する予定だ。
③glolab のプログラム利用者数、④相談対応をした教員支援者数、⑦LINE もしくは WEB からの相談者数については、団体立ち上げ期の１年目に非常に苦労した。コンテンツを作っても利用者へのアウトリーチが難しく学校等に DM を送付したがあまり効果がなかった。そこで事例報告会の開催数を増やしたり、マスコミにリーチしたりする対応策を練った。３年目にメディア掲載等があり高等学校の問い合わせも増えているが、目標達成時期にアウトプットの目標を達成することはできなかった。また、生徒自身からの相談はもともと関係性があった生徒以外からはほとんどなかった。若者が相談するには信頼関係構築がまず必要であることがわかった。
⑤事例報告会に参加する教員、支援者数については、在留資格や大学の教員を招いた進路選択事例報告会については参加者数が多かったが、glolab のオリジナルコンテンツである動画をつかったキャリアワークショップの参加者数が少ないことが目標達成できなかった要因である。 参加者からは、新しい支援のアプローチを知ったという声も届いたが、支援者、教職員にはあまり聞きなれない内容のため参加者が少なかった可能性がある。今後 glolab が活動実績をあげていくことで、キャリア教育の内容についても関心をもつ支援者教職員が増えることを期待する。
⑥１回あたりのワークショップ生徒参加数は、連携先の学校や支援団体の生徒数が少なかったのが要因である。また当団体の自主プログラムの参加者がまだ

プログラム内容が周知されていなかったため、人数が少なかった。
⑦個別メンタリングについては、伴走支援をおこなっている学校、教職員の協力によりプログラムのなかにメンタリングをいれた学校、自主プログラムで途中から個別メンタリングを取り入れたプログラム、にメンタリングした生徒が限られた。１回限りのキャリアワークショップでは、生徒の信頼関係構築の面からメンタリングまで行うのは難しいことがわかった。ただ、教職員の協力で単発のプログラムでもメンタリングの時間をとって、進路選択につながったケースもあったので、今後のプログラム設計の参考としたい。

４）外部との連携の実績（1000 字以内）

キャリアプログラムを実施した公立高等学校、中学校は助成事業開始前の１校から４校に増えた。その中には、市役所が中心となって高等学校、当団体、入国管理局３者で進路ワークショップを実施したケースもあった。自主プログラムに関しては、他の NPO 法人と連携して日本語作文指導を実施することができた。また、本事業実施前に企業と協働でプログラムを実施したことはなかったが、北海道でおこなったキャリア合宿では、北海道十勝郡浦幌町の企業と連携して、企業の事業の理念や事業を探求する仕事体験を実施した。また、コンビニ大手企業を高等学校に招いて進路の授業を協働で行った。
高等学校・中学校の連携にむけて、教職員・支援者向けの勉強会や事例報告会の参加者に積極的に情報を発信し、関係性構築につとめた。また、実施の際は、可能な限り決定権のある管理職の教職員にもかかわってもらい、学校の課題感も把握して授業実施にあたった。
企業に関しては、外国ルーツの青少年の実態についてあまり情報をもっていないケースが多く、外国ルーツ青少年の特性、可能性など丁寧に説明した。また、連携にあたって、企業から単に事業の支援をしてもらうのではなく、ともに外国ルーツの青少年の人材として育てるために何ができるか考えてもらい、ともに事業を作る姿勢で取り組んだ。

５．アウトカムの分析

（１）アウトカムの達成度

①短期アウトカムの計画と実績

短期アウトカム	指標	初期値・ 初期状態	目標値・ 目標状態	達成時期	アウトカム発現状況（実績）
1.glolab のプログラムに参加した生徒のｷｬﾘｱ(進学・就職)についての基本的知識	①glolabのプログラムに参加した生徒のｷｬﾘｱ(進学・就職)についての基本的知識 ②glolabのプログラムに参加した生徒の将来像の具体化の程度 ③glolabのプログラムに参加した生徒が取り組むべき課題の具体化の程度	①プログラム参加時の調査に基づいて個別に設定 ②プログラム参加時の調査に基づいて個別に設定 ③プログラム参加時の調査に基づいて個別に設定	①glolab のプログラムに参加した全ての会員の生徒がｷｬﾘｱについての基本的知識を有している ②glolab のプログラムに参加した生徒の 80%以上が将来像を具体化 ③glolab のプログラムに参加した生徒の 80%以上が自身の課題を具体化	2023/3/31	**伴走支援プログラム 自主プログラム（N=21）** プログラム参加時アンケート。奨学金、在留資格等、進路等の基本知識アンケートを実施。 21 名参加者全員に変化があらわれた。 **伴走支援プログラム 公立高校 (N=7)** （授業内容が違うので学年で分けている） １－2 年生 3 名 理解度があがった生徒はいなかった。初回アンケート 2 名回答、事後アンケート 1 名回答。1 名のみの結果 3 年生 4 名 判定不能 初回アンケートと事後アンケートの回答者が別のため **単発プログラム(N=53)**（授業内容が違うので学年で分けている） 授業実施前と授業実施後に基本知識に関するアンケートを実施した。 高校１－2 年生および中学生 進路についての在留資格の知識についてのアンケートを実施した。 授業実施後 41 名のうち 33 名の理解度があがった。得に在留資格が進路にど

					う影響するかという項目で理解度があがった生徒が多かった。 3 年生　就職活動にあたっての基本的な知識を有しているか、アンケートを実施した。授業後のアンケートでは 12 名のうち 9 名の理解度があがっていた。特に就職活動の考え方、就活の方法などの理解があがっている傾向がみられた。 **①　伴走支援プログラム　自主プログラム（N=21）** 21 名全員の参加者が将来像を具体化できた。（ワークショップの成果物で判断） **伴走支援プログラム　公立高校 (N=7)** 将来像を具体化できた参加者は 2 名だった。（授業内の成果物で判断） **単発プログラム(N=53)** 45 名の参加者が将来像を具体化できた。（授業内の成果物で判断） **②　伴走支援プログラム　自主プログラム（N=21）** 100%の参加者が課題を具体化できた。（ワークショップの成果物で判断） **伴走支援プログラム　公立高校 (N=7)** 課題を具体化できた参加者は 2 名だった。（授業内の成果物で判断）

					単発プログラム　（N=39） 100%の参加者が課題を具体化できた。（ワークショップの成果物で判断）一部の単発プログラムに課題を発見する内容を入れなかったので 14 名は判定不能
２．会員の glolab の glolab のプログラムに参加した外国ルーツ生徒が、支援リソースを活用しながら自助努力で問題に取り組み、ありたい将来像の実現をするようになる。	①会員の glolab のプログラムに参加した生徒の問題の解決に向けた自信の度合 ②会員の glolab のプログラムに参加した生徒のありたい将来像を達成するための取り組み度合い	①プログラム参加時の調査に基づいて個別に設定 ②プログラム参加時の調査に基づいて個別に設定	①glolab のプログラムに参加した生徒のうち 70%以上が課題解決に強い自信を有する ②glolab のプログラムに参加した生徒のうち 70%以上がありたい将来像を達成するために何か 1 つでも取り組みを始める	2023/3/31	①**伴走支援プログラム　自主プログラム（N=21）** 変化が現れた生徒は、14 名だった。 **伴走支援プログラム　公立高校 (N=7)** 変化が現れた生徒は 2 名だった。 **単発プログラム(N=53)** 単発の授業なので人数は判定不能。以下代表例のエピソード glolab の授業で自身の在留資格の課題に気づいた生徒が翌日の相談会（入管同席）で相談。入管から内定をもらえれば、定住者へ切り替えられることを伝えられ、在留資格の壁の課題解決に自信をもった。 ②**伴走支援プログラム　自主プログラム** 21 名全員の参加者が将来にむけて取り組みをはじめていた。（ワークショップの成果物で判断） **伴走支援プログラム　公立高校** 取り組みをしている兆候は現れなかった。 **単発プログラム**

					１日の単発プログラムなので判定不能
３．相談対応および事例報告会に参加した教員及び学校関係者が、外国ルーツ生徒の問題を理解し、生徒への問いかけや働きかけをして、問題を発見するようになる。	①教員の問題への理解度 ②教員の問題に対する位置付け（優先順位） ③教員が把握する生徒情報の量	①相談対応の際の調査に基づいて個別に設定 ②相談対応および事例報告会に参加した際の調査に基づいて個別に設定 ③相談対応および事例報告会に参加した際の調査に基づいて個別に設定	①相談対応をした教員の 90%以上が相談事例の要因を理解。~~事例報告会に参加した教員の70%が、諸問題を理解~~ ②相談対応および事例報告会に参加したりした教員の７０%が優先して生徒の問題をヒアリングする ③相談対応および事例報告会に参加した教員の70%が生徒の進路に関して何かしら行動をおこした。	2023/3/31	**①伴走支援プログラム　公立高校（N=2）定性** ヒアリング プログラム実施中の面談を通して、生徒の家族の問題や在留資格の問題等を理解した。（伴走支援） 個別相談で、進路選択にあたって在留資格、家庭の問題、日本語の問題が具体化された。また保護者の意識の課題があかるみになったが、保護者の意識を変えるのはいまだ難しい（単発プログラム） **相談対応した教職員(N=6)** ６名全員（100%）の教職員が相談事例の要因を理解 ~~**研修会・事例報告会参加者（N=6 2022年12月実施アンケート回答者)**~~ ~~100%の参加者が諸問題を理解~~ **②伴走支援プログラム　公立高校（定性** ヒアリング（N=2） 進路状況確認等生徒への声かけが増えた。（伴走支援） 相談対応する時間が増えた。（単発プログラム） **相談対応した教職員(N=6)** ８３%の教職員が生徒の問題をヒアリングした。 **研修会・事例報告会参加者（N=6 2022年12月実施アンケート回答者)**

					83%の参加者が生徒の問題をヒアリングした。 **③伴走支援プログラム　公立高校（定性** glolab のプログラムを通して、生徒と意思の疎通ができるようになった。FRESC への訪問など外部リソースの使い方がわかり実際訪問した。（伴走支援） 行政と連携し就職先候補企業の啓発、開拓をおこなった。（単発プログラム） **相談対応した教職員(N=6)** 100%の教職員が行動を起こした。 **研修会・事例報告会参加者（N=6 2022年12月実施アンケート回答者)** 83%の参加者が行動を起こした。
４．相談対応した教員が、外国ルーツ生徒による悩みや問題の解決を、伴走者として後押しするようになる。	①教員が生徒と接する時間 ②そのうち、生徒へのｺｰﾁﾝｸﾞやﾒﾝﾀﾘﾝｸﾞに費やした時間 ③教員による問題の解決度	①相談を受ける際の調査に基づいて個別に設定 ②相談を受ける際の調査に基づいて個別に設定 ③相談を受ける際の調査に基づいて個別に設定	①相談対応をした教員において生徒に接する時間が 30%以上増加 ②相談対応をした教員において接する時間の50%以上を生徒指導に費やす ③相談対応をした教員の 80%以上が諸問題を	2023/3/31	① **伴走支援プログラム　公立高校（定性** ヒアリング 相談や進路状況の確認など声掛けが増えたと回答。 **相談対応した教職員(N=6)** 100%の教職員が生徒に接する時間が30%増加したと回答した。 **研修会・事例報告会参加者（N=6 2022年12月実施アンケート回答者)** 67%の参加者が生徒に接する時間が30% 以上増加したと回答した。 ② **伴走支援プログラム　公立高校（定性** ヒアリング

			解決		50%以上を進路指導に費やしている。 **相談対応した教職員(N=6)** 100%の教職員が 50%以上を生徒指導に費やすと回答 **研修会・事例報告会参加者 (N=6 2022年12月実施アンケート回答者)** 67%の参加者が50%以上を生徒指導に費やすと回答 ③ **伴走支援プログラム 公立高校（定性** ヒアリング 在留資格の課題を抱えている生徒は、FRESC に訪問したことで解決することができた。 **相談対応した教職員(N=6)** 100%の教職員が諸問題を解決した。 事例 進路未決定の 3 年生がおり、生徒が何を考えているかわからないという相談があった。glolab の相談員が教員と生徒が面談をしたところ、在留資格に問題があることが発覚した。問題解決のためには進学が唯一の道であることを伝え、生徒の進学意欲が増した。その後教職員のサポートで生徒は進学することができ、在留資格も変更することができた。 **研修会・事例報告会参加者 (N=6 2022年12月実施アンケート回答者)** 100%の参加者が諸問題を解決した。

５．glolab のプログラムに参加した外国ルーツ生徒が、ﾛｰﾙﾓﾃﾞﾙの経験・ﾏｲﾝﾄﾞｾｯﾄ・行動規範を共有したことで、より積極的に自身の将来設計（進学・就職）に取り組むようになる。	①glolabのプログラムに参加した生徒が自身の将来設計に取り組む意欲の度合 ②glolabのプログラムに参加した生徒生徒が進学・就職する上で取り組むべき問題の解決に向けた意欲の度合	①プログラム参加時の調査に基づいて個別に設定 ②プログラム参加時の調査に基づいて個別に設定	①glolab のプログラムに参加した生徒のうち 80%以上が高い意欲を有する ②glolab のプログラムに参加した生徒のうち 80%以上が高い意欲を有する	2023/3/31	①**伴走支援プログラム　自主プログラム（N=21）** 100%の生徒が高い意欲を有した。 **伴走支援プログラム　公立高校(N=7)** 0%:取り組みをしている兆候はなかった。 **単発プログラム(N=53)** 単発の授業なので%は判定不能。以下代表事例。通訳になりたいという夢を持っていた生徒が日本語力をあげるために高校卒業後、日本語学校に入学することを希望していた。経済的にも厳しく、日本語学校進学が通訳というキャリアに直結するものではないことを担当教員が伝えていた。進路の授業で外国ルーツの社会人のライフストーリーを聞いて就職希望に進路変更をした。社会人は、母文化の言語を使って旅行会社で働いていること、旅行会社で働くまではさまざまな仕事を経験したこと、自分にとって何が一番大切か優先順位をきめて進路をきめてきたことをはなした。生徒は母語を使った仕事は通訳だけではないこと、必要な日本語は仕事をしながら身につけられることを理解した。 ② **伴走支援プログラム　自主プログラム（N=14）** 100%の生徒が高い意欲を有した。

					伴走支援プログラム　公立高校(N=7) 0%:意欲が見える兆候はなかった。 **単発プログラム(N=53)** 単発の授業なので%は判定不能。以下代表事例。授業後の相談会で、進路の方向性がきまった通訳志望の生徒が高校在学中に自身が課題と認識している日本語力を上げる方法、働きながら日本語を学習する方法に関する相談があった。オンラインの日本語学習教室を紹介し学習を開始した。

④ アウトカム達成度についての評価（2000 字以内）

事前評価で実施した調査では、外国ルーツの若者から、「自分の好きなことがわからない」「将来やりたいことがわからない」など将来像の探索に課題を抱えていることがわかった。また進路決定に関して必要な情報がもっとほしい、先輩との出会いが必要だという声がよせられた。一方、職員からは生徒がどんな悩みを抱えているかわからない、専門的な知識を学べる場が欲しいという回答があった。こういった回答によって事業設計の妥当性が裏付けられたが、①当団体が提供する支援プラットフォームのオンラインのメリットとデメリットを明確にし、オンライン支援だけではなく、適切なオフラインとオンライン支援組合せを提示できるか、②学校への各学校の教員にいかにアプローチし、各学校における本事業に対する理解と受容がどれだけ進むかが課題であることも指摘された。中間評価では、この指摘のように、オンライン支援メニューの LINE 相談、LINE 診断ツールのアウトプットに課題があった。また、学校との連携数（結果的に支援生徒数）、自主プログラムの参加者数も中間評価の時点では限定的で、アウトカムの算出が困難だった。

この中間評価の結果をうけて、①アクトカム達成のためにオンラインツールをオフラインのキャリアプログラムに組み込み、動画や LINE 診断ツールを活用した進路支援プログラムを開発し、連携校に導入した。また、②進路支援プログラム及び自主プログラムの事例報告会や、専門家を招いた勉強会等教職員や支援者とつながる場を積極的につくった。こうした取り組みで、3 年目には進路支援プログラムを導入する学校・支援団体が 1 校から 4 校 2 団体まで増えた。また自主プログラムの参加者も教職員からの紹介等で 7 名から 14 名に増えた。その結果、自主プログラムの（NEWDOOR 進学プレッププログラム、みらいチャレン

ジプログラム）参加者がアウトカム 1,生徒のキャリアについての基本的知識 2 生徒の将来像の具体化,5 生徒のロールモデルからの将来設計に関する学びについて目標を達成することができた。当該プログラムでは、自己の内省、多様な生き方や仕事との出会い、ロールモデルとの対話など体験をつんだうえで、将来を考え、自己の課題に向き合うまで伴走支援を行った。一方、単発型のプログラム（高等学校や支援団体との連携）でも、自己内省のワークショップを通し将来像を具体化したり、LINE 診断ツールを使用したりしたことで、課題を発見するといったアウトカムの発現が見られた。また、外国ルーツの社会人との対話から進路を決定する生徒も現れた。また、自主プログラムの「みらいチャレンジプログラム」の参加後アンケートでは(18 名中 13 名回答)、13 名中 12 名がプログラムに対して大変満足と回答した。また、13 名中、12 名中が当該プログラムが将来を考えるために勉強になった、プログラムの参加後何か新しいチャレンジをしたと回答している。このように、単発／伴走支援ともにアウトカムの発現がみられたことから、アウトカム 1,2,5 は注目に値すると考える。

一方、伴走支援に入った高校の生徒のアウトカム 1,2,5 が達成しなかったことも課題である。他のプログラム参加者と比較してレディネスの課題があり、教職員のヒアリングであったように、生徒が何を考えているのか意思の疎通からはじまった支援だった。少しずつ進路に関して考え始めるなど変化が見られる生徒が 2 割程度いたが、1 年ほどの伴走では、設定したアウトカムに達成することが困難であった。一方変化が現れた生徒はいずれも通訳をいれ、生活面、学校面、家族関係等詳細な聞き取りをすることができた生徒であった。生徒の状況を把握した上で、キャリアプログラムを実施することがより効果的であることがわかった。

一方、アウトカム 3 教職員の問題発見能力.4 教職員が伴走者となる行動変容に関しては、課題が残る。伴走支援に入った高校の教職員、研修会参加者、相談対応した教職員いずれでもアウトカムの目標値は達成することができたが、母数が少なく、結果が有意であるとは言えなかった。原因の一つとして当団体の支援プラットフォームの周知をはかったものの、アウトプットに表れているように、相談数は限定的だったことがあげられる。

生徒の行動変容に関するアウトカムの達成度を鑑みると、支援プラットフォームの内容自体は効果があると考える。一方、オンラインツールで一定程度の効果を想定していたが、それは困難であることがわかった。オフラインとオンラインのハイブリッド支援をするためには人的リソースが必要である。広域的な対応を図りつつ、今後いかに当該支援プログラムを実施できる外部人材、外部団体を増やしていくことが課題である。また、アウトカムが達成されない支援現場があり、多様なバックグランドを持つ生徒に対して更なるプログラムの丁寧なカスタマイズが必要になると考える。

教職員の行動変容に関するアウトカムについては、周知が最大の課題である。相談対応した教職員が転勤になったため、その学校との関係が途切れたケースもあった。このことから個別の教職員のニーズに対応しつつも、都道府県の教育委員会と連携するなど仕組みづくりが必要である。

（２）波及効果（800 字以内）

事業を実施にあたって、当初は東京都および東京都近郊の空白地域を想定していたが、オンラインで事例報告会や勉強会を実施したことで、関西地域や中部地域から相談やキャリアプログラムの実施依頼があった。ターゲット層を高校生以上として事業設計をしたが、中学校からの依頼や自主事業に中学生の参加があった。一方中学生は、まだ社会にでるまでに数年あり、認知力も発展段階にあるので、プログラムをそのまま中学生にあてはめることが難しく、中学生むけのプログラムをあらたに開発する必要性があることがわかった。今日では中学校段階からキャリア教育が重視されていることから、今後の課題としたい。
また、事業参画のプレイヤーとして企業は当初想定していなかったが、企業との連携の流れをつくることができた。企業の参画においては、数社と外国ルーツの若者のキャリア支援について討議をしたが、外国ルーツの若者の存在自体が認識されていないことがわかった。当団体から、外国ルーツの高校生の存在の認識が単なる労働力不足を補完する担い手として捉えられないように、外国ルーツの若者の人材としての可能性や課題をしっかり認識していただけるよう、丁寧に説明を行った。その結果、公立高校の進路の授業に企業を招くことができた。また今後にむけて、IT 企業との人材育成、公立高校でのインターン授業等具体的な連携の話がでている。

（３）事業の効率性（800 字以内）

日本語教育、キャリアコンサルティング、プロのライター等、取り組む事業に関する専門家を人的リソースとして投入した。また、外国ルーツの社会人や学生を伴走者やプログラムの企画者として参画させることで、専門家の視点と当事者の視点を掛け合わせたプログラムを開発することができた。具体的には、キャリアコンサルティングの技法を基本にした動画やキャリア支援プログラム、外国ルーツの社会人のライフストーリー記事および日本語教育専門家による記事のリライト教材など質の高いアウトプットを制作することができた。自己資金については、当初計画 4,019,199 円に対し、実際に投入した金額は、2,736 ,615 円と 130 万円ほど減額となってしまったが、アウトプット、アウトカムについては大きな影響はなかった。
また、同じ経験をした外国ルーツの社会人だからこそ若者に伝えられる行動規範やメッセージをプログラムに組み込むことができた。こういったインプットをアウトプット、アウトカムの達成につなげることができたと考える。また、会計・経理についても専門的知識を持つ人材を投入したことで効率的な事業運営につながった。民間資金については、助成金を 3 団体から受けることができた。その中で、市民の投票で選ばれた助成金があり、地域社会に外国ルーツの若者の課題の認知を広げる点で意義が大きいと考える。自己資金については、クラウドファンディングに 2 回取り組んだが、いずれも目標金額には届かなかった。クラウドファンディングは資金調達という面よりも、課題の周知社会化を目的として行ったが、いかに市民社会にわかりやすく伝えることができるか今後の課題である。また、オンライン支援ツールの広報については、SNS の活用、DM 等実施したが、投入した人的・資源的リソースと比較して、アウトプットに効果が見られず、より教育現場に即した柔軟な方法、もしくは外国ルーツの若者に届く方法で、広報活動を展開する必要があり、今後の改善ポイントだと言える。

６．結論（1,500 字以内）

8 - 1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（１）事業実施プロセス			☑		
（２）事業成果の達成度		☑			

（１）、（２）それぞれ１箇所を選択（✓）する。

(1)事業プロセスについて　最初の 1 年は、動画や LINE 診断ツールのプロダクトの制作にリソースの大半をさいた。そのため、受益者の高校生にアウトリーチすることがほとんどできなかった。2 年目から制作したプロダクトを利用したキャリアプログラムを展開し、オフラインでの活動に重点をシフトしたが、中間評価ではアウトプットの一つである外国にルーツを持つ若者へのアウトリーチが計画通り産出されていないことが明白となった。議論の結果、外国ルーツの高校生に直接アクセスするよりも支援者にアクセスしたほうがより効果的であるという結論に達し、事例報告会や研修会を企画実施した。その結果教職員の紹介による高校生の自主プログラムや高校でのプログラム実施につながり、事後評価時点では、支援する外国ルーツの若者の人数の目標値を達成でき、短期アウトカムの出現にもつながった。組織体制に関しては、中間評価で専門家から、一人のメンバーが複数のプロジェクトを掛け持ちしており、PDCA をまわせていないという指摘をうけ、新しいプログラム開始とともに、新しい人材（日本語教育の専門家 1 名と外国ルーツの背景を持つスタッフ 1 名）を採用し、キャリアプログラムの実施メンバーは、プログラムごとにわかれて活動した。結果、全てではないが、PDCA がまわりはじめるプロジェクトがあり、今後の事業運営のモデル例となった。ただし、代表理事にほとんどの権限が集中しているという指摘については、一部のプロジェクトを除いては改善されていない。この点をふまえ事業実施プロセスの自己評価は「想定した水準にあるが一部改善点がある」とした。

自己資金については、当初計画 4,019,199 円に対し、実際に投入した金額は、2,736 ,615 円と 130 万円ほど減額となってしまったが、アウトプット、アウトカムについては大きな影響はなかった。

(2)事業成果の達成度

コロナ禍の厳しい環境のもと、この間、本事業は中間評価を踏まえた事業の改善に努め、かなりの成果を達成できたと考える。コロナ禍はオンラインによる事業

展開にとって追い風になった面もあるが、当事者である外国ルーツの高校生のオンライン環境が必ずしも十分確保できていないという問題も浮き彫りにした。また、学校現場では、コロナ禍で教員の負担が増える中にあって、本事業が大きな成果を挙げるにはまだアプローチの工夫と時間が必要なことも明確になったと言える。

７．提言(1,500 字以内)

外国ルーツの青少年の支援はこれまで小中学校段階までの「日本語教育」や「学習支援」が中心だった。当団体はこの３年間で高校生へのキャリア教育というこれまで支援が届かなかった空白の分野に取り組んだ。これまで述べてきたように一定程度のアウトカムは達成できたと考えているが、支援モデルを拡充していくためには、外国ルーツの若者のキャリア教育を実施できる人材を育成することが不可欠であることを再認識した。外国ルーツの高校生のことをよく理解している教員や日本語教育の専門家がキャリア教育の知見を得たり、キャリア教育の専門家であるキャリアコンサルタントが外国ルーツの若者への支援分野に進出できたりするような、人材養成の場づくりが必要である。

また、外国ルーツの若者を「日本語ができない支援が必要な存在」という視点のみで見るのではなく、「これからの社会を担う大切な存在」という視点から、潜在能力を引き出したり、その能力を発揮できる機会を創出したりする取り組みが必要である。そのため、学校以外のさまざまな分野の社会人との出会いや、社会体験が必要である。具体的には、高等学校の日本語教育のカリキュラムのなかにキャリア教育や、企業との連携によるインターンシップなどの社会体験等を組み込んでいくことが考えられる。学校単体の実施は予算的にも人的にも限界があるので、各都道府県の教育委員会によってプログラムを企画実施することで実現可能性が増すと考える。地域における外国ルーツの子ども・若者を支援するさまざまな民間団体とも連携しつつ、各地の教育委員会に働きかけていくことが必要である。

さらに、高校段階の支援に加え、高校卒業後の受け入れ先である大学、専門学校等の高等教育機関や、企業が外国ルーツの若者の存在に気づき、受け入れの場を積極的に創出することが必要だ。近年、外国ルーツの学生の受け入れ特別枠を設置する大学も徐々に増えてきているが、「日本語力」だけではない力を見る入試および受け入れ枠を設置するのも一考であろう。また、大学等への進学後の支援（奨学金、学習面、キャリア教育など）も重要である。

さらに、当団体は複数の企業と情報交換や外国ルーツの若者のキャリア支援について考察を深めてきたが、そもそも外国ルーツの若者の存在をしらない企業が依然として多い。当団体としても業界団体等へのアプローチや前述のキャリア教育への企業の参画などを通して、外国ルーツの若者の認知を広めていきたい。

where to go & what to be

みらいチャレンジプログラム 2022

～将来について考える力を身につけよう！外国にルーツを持つわたしにできることは、たくさん。～

　これからのことを考えたことはありますか？一人でむずかしかったり、不安になったりすることもありますよね。みらいチャレンジプログラムでは、外国ルーツと仲間と社会のことを勉強して、将来を考えることができます。いろんな大人や先輩にアドバイスをもらうこともできます。
　ただ座って考えるだけではなく、夏休みには北海道浦幌町に行っていろんなところを見学します。そして、いろんな人と話して楽しく学び考えます。
　将来について考えたいなら、今年「みらいチャレンジプログラム」でいっしょにがんばってみませんか☻

6 月 …事前学習（対面＆オンライン）

8 月 …夏合宿（北海道・浦幌町）

10 月 …事後研修①（対面＆オンライン）

12 月 …事後研修②（対面＆オンライン）

＊オンラインで参加できます。自分で WI-FI を準備してね。東京の会場に来られる人はできるだけ対面で参加してください。

定員: 10 名

参加費: 5000 円

締切: 5 月 31 日

【申し込み】
上の QR コードを読み込んで、Google form より申し込んでください。

【問い合わせ】
特定非営利活動法人 glolab
E-mail: contact@glolab.org

【協力】
一般社団法人十勝うらほろ楽舎
住友商事株式会社

【助成】
外国ルーツ青少年
未来創造事業

舞い上がれ 社会を変える みんなの力
休眠預金を活用した事業です

【プログラム】

①6月　はじめまして…事前学習

～自分を知ろう　浦幌を知ろう～

・わたしの好きなこと、できること

・浦幌町ってどんな街

②8月　北海道・浦幌町で合宿…夏合宿

～仕事とくらしのいろんな可能性を知ろう！～

・浦幌の高校生や大人との交流

・浦幌の新しい、おもしろい仕事を見学、体験

③10 月、12 月　じっくり考えよう　…事後研修

～これからどうなりたい？将来のことを考えよう～

・10年後何をしている？どんな大人になっている？

・自分のアルバム、記事作り

＊1:コロナの状況によりプログラムを変更することがあります。

＊2:参加するときは、マスクとアルコール消毒をお願いします。対面参加の前に抗原検査を送ります。(検査キットのお金はかかりません)

（写真：みらいチャレンジ 2021 の参加者とサポーターのみんな）

壁は乗り越えられる！
外国にルーツを持つ人だからこその強みもある。
いっしょに合宿に参加しよう！
なにか気になることあったら LINE から聞いてください！

glolab
逆境を成長機会に

（glolab 公式 LINE）

チャレンジすることの大切さ
glolab
たくさんチャレンジしたら、
やりたいこと、やりたくないこ
、できないことがわ
かってくる。
なんでもいいので、自分の
、好きなことにチ
ャレンジしてみよう。

DOMEMO
WISCONSIN
MILWAUKEE

WORK
うらほろスタイル